



学校だより

# 黄菊

学校評価号

令和5年2月1日  
立川市立第七小学校  
校長 島村 雄次郎

《本校の教育信条》『我等は人間 よき人間でありたい』武者小路 実篤先生より

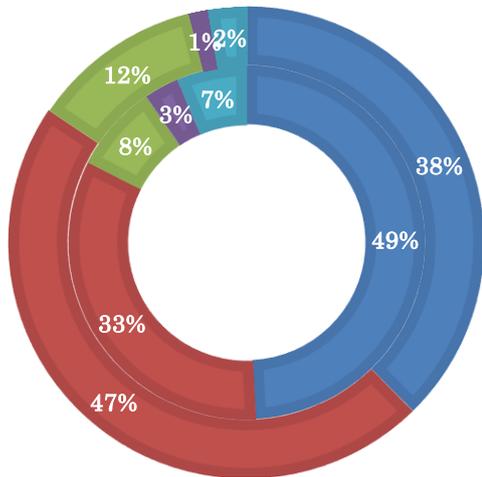
## 学校評価まとめ

2学期に行わせていただいた学校評価について、結果を掲載します。  
アンケートでお答えいただいたご意見を加味し、保護者とともに子どもたちの心身の成長を目指せる学校として、取り組んでまいります。  
ご協力ありがとうございました。

※ 分析に掲載した児童と保護者の数値は、肯定評価（よい、おおむねよい）の合算値

### 学校目標の周知

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明

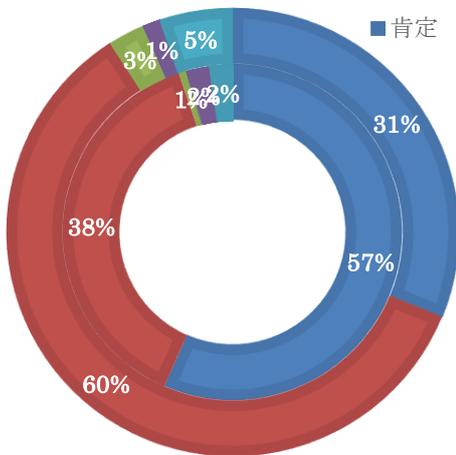


<内側：児童 85% /外側：保護者 82%>

学校目標の周知については、肯定的な評価が多い。  
各教室への掲示だけでなく、朝会の校長講話、学年便りなどで、引用をすることで、何を目標として努力するのかを繰り返し説いてきた結果だと思われる。  
引き続き、各ご家庭へ向けて、周知をはかるだけでなく、子供たちに目指すところは何かの指針となるように七小の目標を伝えることを目指す。

### 学力・体力の向上にむけて

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明

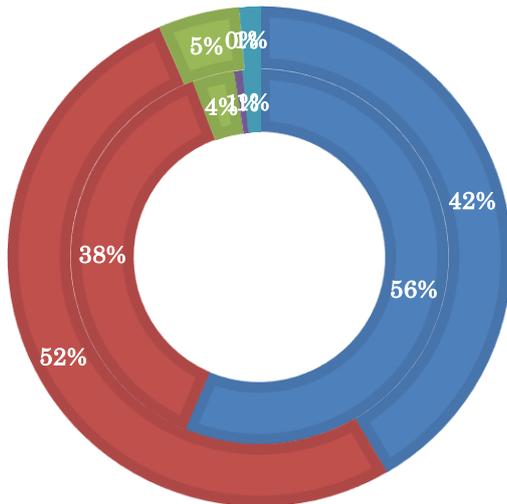


<内側；児童 91% /外側；保護者 96%>

非常に高い肯定の数字が出ている。  
学力や体力向上へむけての取り組みが概ね評価をいただけているものとする。  
学力向上については、全国学力調査やベネッセの学力調査でも伸長がみられる。ただ、応用力、問題に対する適応力の弱さが少し見られることから、引き続き、学校として基礎基本を安定させるとともに、学びを深めていきたい。  
体力の向上についても、体育の授業だけでなく、集会などを活用し、より様々な動きに取り組ませ、体力の向上を目指していく。

## 学校での安心安全

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



<内側；児童 94% / 外側；保護者 94%>

非常に高い肯定の数字が出ている。

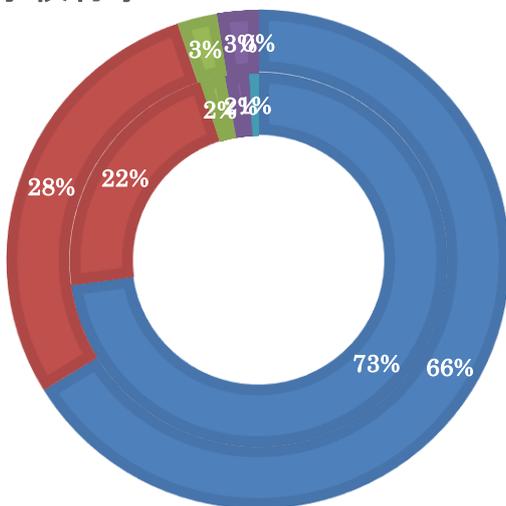
単学級の学校ではあるが、ことばの教室や特別支援教室キラリの拠点校となっているため、児童一人あたりに対する大人の数が非常に多い。常に、児童の様子に気を配り、目が行き届いていることが原因ではないかと思われる。

また、地域の協力も多く得られることもあり、地域の方々や保護者の目が届いていることも起因しているものと考える。

引き続き、子どもたちが安心して登校でき、安全に過ごせるよう学校体制を整えていきたい。

## 学校行事

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



<内側：児童 94% / 外側：保護者 95%>

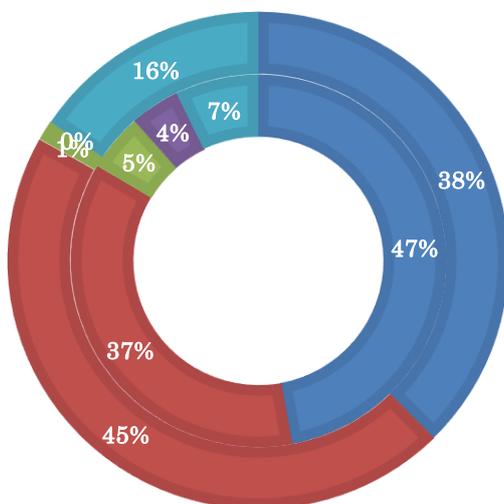
非常に高い肯定の数字が出ている。

新型コロナウイルス感染症はまだあるものの、状況を見ながら、児童の活動を増やしてきたことが起因していると思われる。各学年の社会科見学だけでなく、全校遠足やたてわり班活動を積極的に行い、運動会や音楽会でも制限をかけながら、保護者にも参観していただいた。

まだまだ、国内の感染者が減らない中ではあるが、引き続き感染症対策をしながら、児童の活動を増やしていきたい。また、保護者にも子どもたちの成長を見ていただけるように適宜対応していく。

## いじめ・暴力の防止

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



<内側：児童 83% / 外側：保護者 84%>

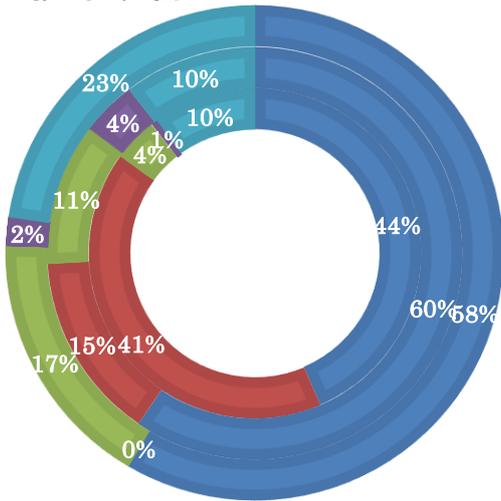
高い肯定の数字が出ている。

教員間で情報を共有し、早めに対応をするように心がけてきた。特に重要度が高い案件に関しては、管理職を交えて対応を考えて、学級担任が一人で対応することが無いようにしてきた。また、SCとも連携をして子どもたちの心の安定を図ってきた。

ただ、「わからない」と回答した児童が16パーセントいることから、相談するとき、困ったときに、相談できる場所について繰り返し伝えていく必要があると考える。

## 授業改善

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



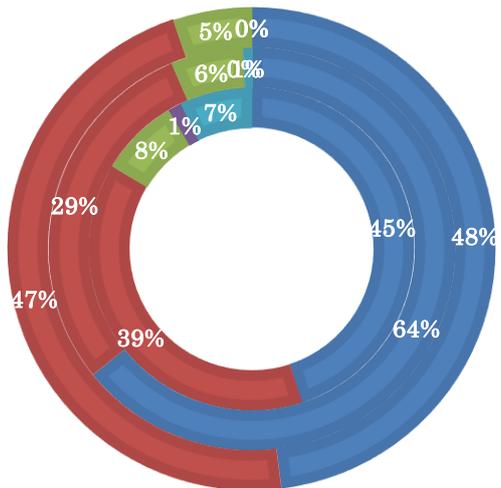
外側 ; 保護者	58%
真ん中 : 児童 - 授業が楽しい	75%
内側 ; 児童 - 授業がわかる	85%

児童は「授業がわかる」は85パーセントという高い評価が出ているが、「授業が楽しい」では肯定評価が75パーセントと減ってしまっている。これは高学年になるほど数値のずれが出ていることから、学習内容の難易度が増すことに関係すると思われる。「わかるけれど、楽しくない。」状況を改善するために学びを楽しめるよう工夫が必要と感じる。

また、保護者の肯定数値が6割くらいである。授業改善の様子や児童が学びに楽しさを感じているところを適宜伝えられるように学校側の工夫が必要と思われる。また、ユニバーサルデザインの授業を取り入れ、どの子どもも楽しめわかる授業を目指して、次年度の授業改善を行っていきたい。

## 規則正しい生活

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



外側 ; 保護者	95%
真ん中 : 児童 - 朝食を食べる	93%
内側 ; 児童 - 持ち物をそろえられる	84%

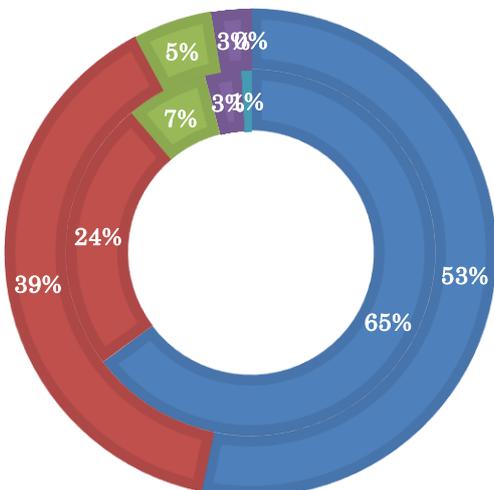
高い肯定の数字が出ている。

児童の生活では、朝起きてからの活動はできており、ご家庭でもしっかりと生活をさせてくださっていることがわかる。

しかし、持ち物をそろえるなど学習の準備はもう少し努力が必要な子もいる。各学級の学習の準備や専科の持ち物などしっかりと揃えられるように、指導をしていきたい。

## 家庭学習

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



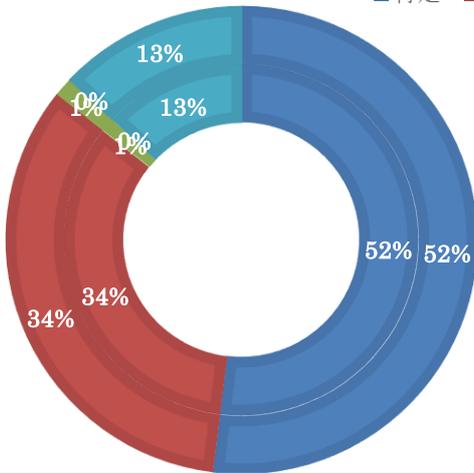
<外側 : 児童 89% / 内側 : 保護者 92%>

非常に高い肯定の数字が出ている。

この高い数字が、前出の学力や体力向上にもつながっていると考えられる。ただ、個別にみると家庭学習ができていない子とできていない子の差が激しい。一人で学びを進めることが難しい児童も各学年におり、家庭学習のさせ方を工夫していく必要がある。さらに学力を向上させていくためには家庭での学習が必要不可欠となるので、個に適應して、学びを深められるように課題を工夫をしていきたい。

## 市民科での探究的な学習

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



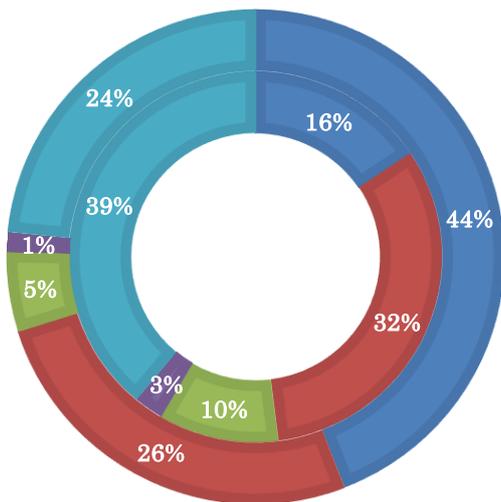
<内側：児童 86% / 外側：保護者 86%>

児童は3年生以上に質問している。全体として、高い肯定の数字が出ている。

市民科で地域の人が多く関わり、実際に触ったり、話を伺ったり、して体験からの学習を進めている。その活動の中で、楽しみ意欲的に学んでいると思われる。それぞれの学年で、知ったことや体験したことを中心に、課題を見付け、解決していこうという意欲がみられる。今後も、地域について探究していけるように、学びを進め、市民科のより良いカリキュラムを構築していく。

## 小中連携（児童）

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



内側：中学に行くのが心配 48%  
外側：入学前に中学の事を知りたい 70%

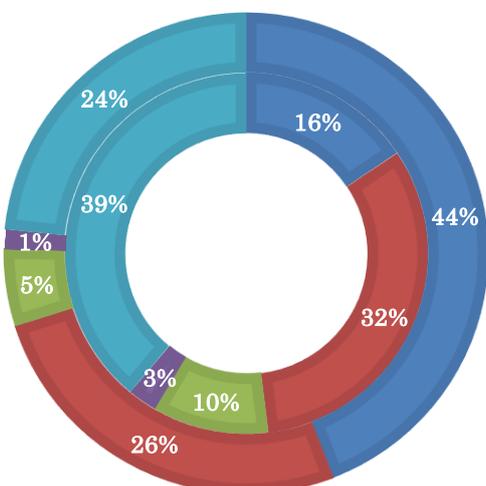
3年生以上にアンケートを取っている。

中学に行くことが、心配であると答えている子が少ない反面、入学前に中学校について知りたい子は多くなっている。

今年度、中学校の英語科の先生に来ていただき指導を受ける活動を行った。中学校生活について興味関心をもてるように、見通しをもたせ、中学校生活の楽しさを伝えられるようにより連携を深めていく。

## 小中連携（保護者）

■肯定 ■やや肯定 ■やや否定 ■否定 ■不明



内側 校区の小中が連携して取り組んでいる。 48%  
外側 小中連携は教育活動に大切 80%

保護者の意見の中では、小中連携教育での取り組みは重要であると理解していただいていることはわかる。

ただ、校区の教育活動の連携があまり伝わっていないことが数値からわかる。これは、コロナ禍において、活動が制限されてきたことも影響していると思われる。少しずつ通常の学習活動が出てきた中で、本年度は、三中生が職場体験を行ったり、その後、運動会の手伝いに来たりと少しずつ復活している。引き続き、校区で連携しながら、学習活動を行い、児童の学びを増やしていけるように努力をする。